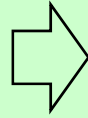


かんがい事業を利用したパインアップルの生産

経営体の概要

事業実施前 基幹作物: さとうきび
経営面積: 40a



事業実施後 基幹作物: パインアップル
経営面積: 50a

取組の経緯と営農転換のポイント等

当地域にかんがい排水事業が開始された昭和60年頃はサトウキビ専作経営であったが、サトウキビの経営が年々厳しさを増す一方、園芸作物の振興が図られる中で、平成元年にサトウキビ経営から収益性の高いハウスパインアップル経営へ移行した。

更に、かんがい排水設備完備前までは、ハウスパインアップルへのかん水作業時間が多くかかり、女性1人の労働力では40aのハウス面積が限界であったが、本設備の完備により、かん水に係る労力が大幅に軽減され時間的に余裕ができたことから、新たな経営品目である露地生食用パインアップル栽培10aを組み入れた経営を開始することができた。

営農改善のポイント

①省力化

ハウスパインアップルの栽培は花芽分化の確認された1月頃から6月収穫までのかん水が不可欠となっている。設備完備前のかん水方法は、ほ場を2区分して、10aあたり1.2tを10日に1回、2日かけて行っていた。

設備完備後は、全ハウスを1日でかん水できるようになった上、かん水量も10aあたり2.0tまで多かん水を行えるようになった。今後は、ハウス内へスプリンクラーを設置し、さらにかん水作業時間を軽減する計画である。



②単収・品質の向上

かん水不足で生産されたパインアップル果実は果実内の水分不足により、重量が軽く、食感が劣る傾向にある。特に、現在生食用パインアップル栽培の主流となっているボゴール種は他品種に比べて果肉内が空洞化する傾向にあり、水分不足による品質低下が著しい。本地域では、水利が良くなり、かん水量が増えたことで慢性的な水分不足が解消されたため、単収、品質共に向上した。

事業概要

事業種 国営かんがい排水事業
関係市町 名護市、今帰仁村
受益面積 1.326ha
事業期間 昭和60年度～平成18年度
事業目的 畑地かんがい、用水改良
主要工事
ダム 147万m³
ファームポンド 10箇所
揚水機場 8箇所
幹線用水路 17.2km

位置図



<問局い合わせ先>

沖縄総合事務局
農林水産部
土地改良課
電話: 098-866-0031
(内線83331)

(平成22年調査時点)